

目的 現在の我が国の社会環境は以前に較べると、大衰に乱れてゐる。青少年非行・校内暴力・離婚も多し、しかし、まだピストルを所持しなければならぬというアメリカの足許にも及ばない。日本は10年遅れてアメリカのようになって行くといわれてゐるが、もしそれが本者だとしたら一大事である。日本の将来のためにも、また人間社会全体にとって、どのように対応していかなければならぬかをさぐるため、現在のアメリカ人の生活観・家族観を知りたいと思ひ、アメリカに因する書物を読みまとめた。

結果 1950年代のアメリカ人が世界の人々に対して抱いてゐた自信、これはアメリカの富・強大な軍事力、アメリカの理想主義などであつた。その夢と自信が内側と外側から、少しずつ崩れてゐた。翻つて考へてみると、ベトナム戦争の影響も強く、2組に1組は離婚し、アメリカの家族はいまや崩壊しつつあるといわれ、また生活費の高騰はアメリカ人の家族が直面している深刻な問題でもあるといわれてゐる。またアメリカの暴力社会は多民族共存という現実が大きな原因のようである。対黒人に対してのみでなく、いろいろ白人種、また南北でもお互いに被害者意識がある。日本人に対する偏見も戦前はひどく、一世の老人たちはどんを苦勞しても、子供たちは大学に入れようと努力した。そして二世達が社会的地位の高し職業につくようになった頃、日本本国の経済復興は時期的に一致した。アメリカ人はキリスト教の教えに忠実に生きることが、道徳と勤勞に対する考え方として残つてゐる。古き良きアメリカを守れ、アメリカの伝統的な価値観を守り続けようとする中年以上の人々、それに反抗しようとする若し人々との争ひであると思われる。